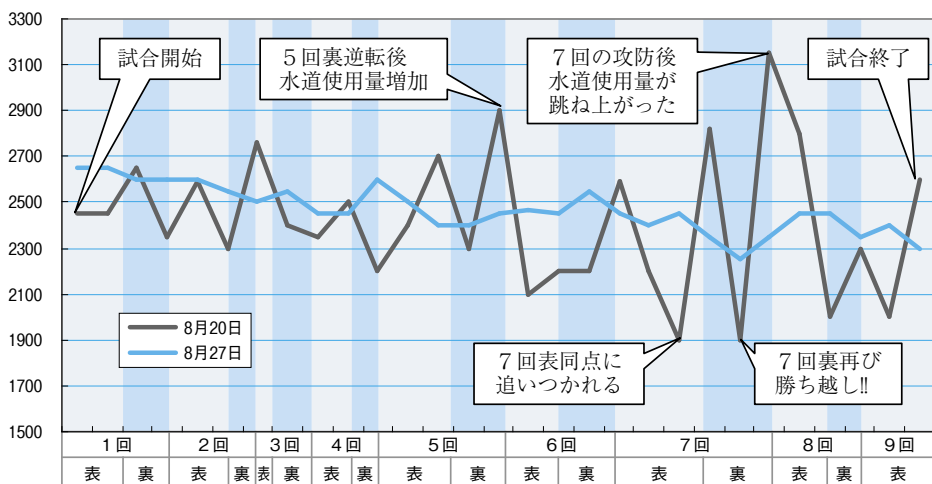


熱く感動した夏

パート2

～ 水道水の使用から見る、夏の甲子園大会決勝戦 ～

配水量 (ml/h)



駒大苦小牧高校が夏の甲子園大会初優勝を成し遂げてから一年、再びあの熱い興奮と感動が苦小牧市中を駆け巡りました。強豪校を相手に、一戦一戦を持ち前の堅い守りとチームワークで勝ち進み、57年ぶりという夏の甲子園連覇を成し遂げた駒大苦小牧ナイン。

今年もまた、甲子園大会決勝戦の様子を、水道水の配水量で振り返ってみましょう。

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
京大外大西	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3
駒大苦小牧	1	0	0	0	1	1	2	0	×	5

今年も水道配水量が大変動!

駒大苦小牧高校が、連覇を賭けて臨んだ、8月20日(土)の決勝戦。苦小牧市の水道配水量は、翌週27日(土)と比較して、著しい変動を示しました。

七回の攻防、配水量激変

水道配水量が少ないということは、水道水があまり使用されていないということです。

序盤は、配水量の変動も小さなものでしたが、中盤、終盤になると、市民の皆さんの高まる期待とともに配水量は激しく変動しました。

特に配水量の変動が激しかったのが、駒大苦小牧が3-1の2点リードで迎えた、7回の一進一退の攻防の場面でした。7回表に2点を失って3-3の同点に追いつかれ、その裏に再び2点を勝ち越し5-3と突き放した、まさに

手に汗握るシーソーゲーム。固唾を飲んで見守った7回裏終了時には、一気に配水量が跳ね上がっています。

市民はテレビに気づけ

水道配水量が激しい変動を繰り返すほどの、白熱した決勝戦。興奮と感動の2時間半をみなさんはどのように過ごしていたのでしょうか?



「家族や親戚のみんなで応援していました。同点・逆転と、ピンチやチャンスには、トイレに行くのも忘れて、テレビにくぎ付けで

した。暑い日だったので、家の窓を開けていましたが、歓声が外に聞こえて、近所の人もビックリしたと思います。」



「主人と二人で応援していました。駒大苦小牧が点数を取ったり、ピンチを抑えたりしたときは、思わず拍手を贈っていました。家事もそっちのけで応援していたので、閉会式が終わったら慌てて買い物に行きました。」

(三光町、主婦)



写真提供 北海道新聞社

再び熱い感動をありがとう

今年も数多くのドラマが生まれた甲子園大会。2年連続して、全国でもっとも多くの興奮と感動を味わえた私達市民は本当に幸せでした。駒大苦小牧高校野球部のみなさん、優勝おめでとう、そして熱い感動をありがとう。